

KOSHO

第12号
平成元年10月発行

- 日本車に未来はあるか(特別企画座談会)
- 第28回東京モーターショー
- ミクロの世界とエンジン
- マリリン・モンローの思い出



自動車技術会関東支部報〈高翔〉

指南車を作った話 ● 景山克三	3
空冷ディーゼル雑話 ● 鈴木 孝	6
〔特別企画座談会〕 日本車に未来はあるか ● 高岸 清 / 佐藤健司 / 鈴木弘孝 / 米村太刀夫 / 横越光広 / 鈴木誠夫	10
第28回東京モーターショー ● 渡邊憲一	19
ミクロの世界とエンジン ● 中島尚正	24
マリリン・モンローの思い出 ● 浪越徳治郎	28
続・シルクロードの旅―サマルカンド・ベンジケント・ヒワ ● 高橋志郎	31
トヨタ博物館の紹介 自動車発達の歴史を体系的に展示	38
支部通信	43
あとがき	45

〔表紙解説〕

今回のクルマは、アストン・マーチン・インターナショナルの1933年製スポーツ・カーであり、ルマンのレースでクラス優勝をしたことから通称ルマンといわれている。
直列4気筒15ℓエンジンは56馬力を出す、レース仕様では80馬力まで高められており、毎分5、000回転まで廻している。

なおアストン・マーチン社は、ライオネル・マーチンがイギリス製スポーツ・カーのチューン・アップでアストン・リリントンのヒルクライムで優勝したことから、スポーツ・カー・メーカーになり、チキ・チキ・パン・パンで有名なルイス・ズボロウスキーの資本参加と、ロバート・バムフォードの技術により数々の名車を生み出して、車名にアストンをつける伝統は今日まで続いている。

(樋口健治)